



よろい

甲を着た古墳人だより



公益財団法人

群馬県埋蔵文化財調査事業団

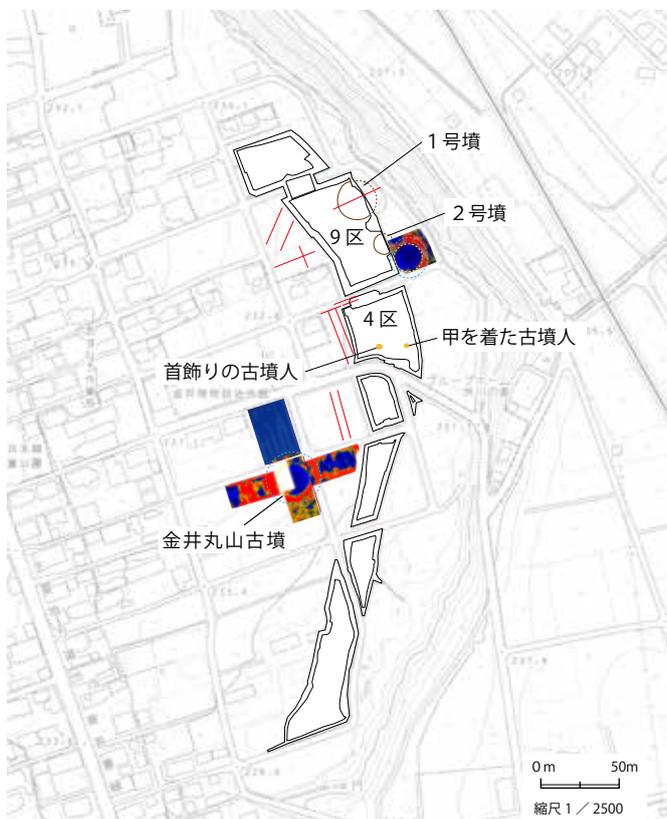
金井東裏遺跡の地中レーダー探査 ～新たな古墳発見!!～

金井東裏遺跡では Hr-FA の下から2基の古墳を調査しました。1号墳は直径15m、2号墳は直径8m程の円墳で、1号墳は5世紀末、2号墳は5世紀後半～末の築造です。これらの古墳は発掘当時、特徴的な埋葬主体部と出土品が朝鮮半島との関連性が強いことで話題を呼びました。

周辺では1978年に、金井丸山古墳の調査が行われましたが、この調査では板状の石材を用いた箱式石棺から鉄剣3振と馬具が出土しました。ただ当時の調査は範囲が限定的で、墳丘の規模や形状などの全容は明らかにされませんでした。今回、渋川市による最新技術を駆使した調査で、これまでわからなかったことが明らかになってきました。

発掘調査をすることなく周辺の遺跡の状況を知る方法に、地中レーダー探査があります。電磁波を地中に向けて放射し、その反射波を測定することにより、地中の様子を探査する方法です。本来はガス管・水道管などの地下埋設物や空洞調査などに活用されてきましたが、最近では遺跡の調査にも応用されています。

渋川市では、榛名山噴火関連遺跡等活用事業の一環として、地中レーダー探査を実施しています。初年度となった令和3年度は、金井東裏遺跡周辺の探査を行いました。



金井東裏遺跡と地中レーダー探査位置



金井東裏遺跡1号墳

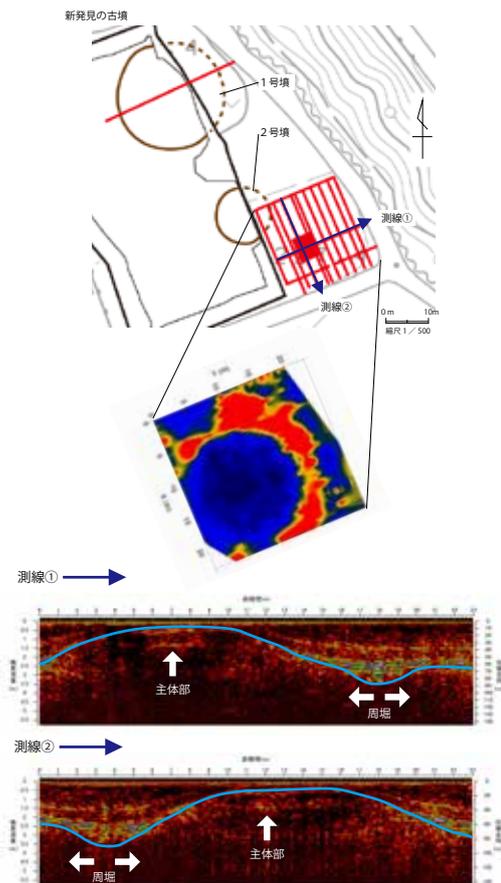


金井東裏遺跡2号墳

今回のレーダー探査の結果、金井東裏遺跡 9 区の東側隣接地で新たに 1 基の古墳を確認しました。墳丘の直径は 16～17 m 程の円墳で、周堀を含めると 30 m に達すると推定されます。埋葬主体部も確認されました。周堀に Hr-FA が堆積していることから、5 世紀後半の築造と考えられます。ここには 1 号墳・2 号墳と合わせて、少なくとも 3 基の古墳が隣接していたことになります。(1 図)

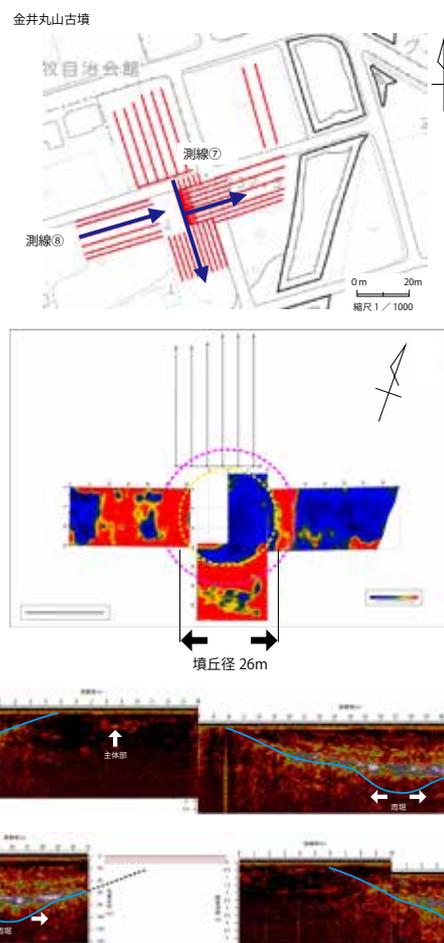
9 区で確認された畑の西側ではサクが連続する畑の続きが確認されました。また、4 区の甲を着た古墳人が発見された溝とすぐ近くの道の続きや竪穴建物などのレーダー反応も捉えることができたようです。

1 図



発掘調査では確認できなかった金井丸山古墳の形状や規模がわかりました。墳丘は直径 26 m 程の円墳で、周堀を含めると 35 m を超える大きさです。金井地域の古墳の中では最も大きい古墳であると推定されます。周堀に Hr-FA が堆積していることから 5 世紀後半の築造と考えられています。(2 図)

2 図



渋川市では 5 年次にわたる地中レーダー探査を計画しています。この調査によって金井丸山古墳や金井東裏遺跡の調査では明らかにできなかった、新知見が得られるのではと期待されています。詳しくは渋川市 HP をご覧ください。

◎渋川市 HP

<https://www.city.shibukawa.lg.jp>

(資料提供：渋川市教育委員会文化財保護課)